

イベント情報

矢口の渡・歌舞伎ふるさとまつり開催

平成二十七年九月二十七日(日)大田区民プラザにて「矢口の渡・歌舞伎ふるさとまつり」が開催されます。今号で取り上げた矢口渡を舞台とした歌舞伎「神靈矢口渡」の上演のほか、特色のある地域の催しを多数開催いたします。是非この機会に、地域の伝統文化を体感してみませんか。

歌舞伎『神靈矢口渡』特集

かまにし

平成27年9月1日発行

地域力推進蒲田西地区委員会
発行集 地域情報紙編集委員会

第57号

月一日発行)で紹介した淨瑠璃『神靈矢口渡』の歌舞伎公演が決定した。
『神靈矢口渡』とは十四世紀(南北朝時代)、新田義興の謀殺事件と後に書かれた軍記物語「太平記」を下書きにした淨瑠璃作品で、後に歌舞伎化され全国で公演されるようになった。

『矢口渡』が実際にモデルとなつた事件の時代背景をよく簡略に説明しておく。

南北朝時代とは一三三六年(延元元年・建武三年)に即位した光明天皇と、吉野に転居した後醍醐天皇により朝廷が分裂し、南朝(大和国吉野)と北朝(山城国平安京)に二つの朝廷がそれぞれ正当性を主張し抗争をつづけたが、一三九年(元中九年・明徳三年)に合併するまでの五十数年の時代をいいう。この間、全国の武将が南朝方、北朝方に付き、各地で戦いを繰り広げた。

新田義興の父・新田義貞は関東を代表する源氏の武将で、後醍醐天皇を奉じ、南朝官軍総大將に任

命された。一方、光明天皇により征夷大將軍に任命された北朝方の総大將は同じく源氏を祖とする足利尊氏であった。

父・義貞の戦死後、新田義興は鎌倉奪還のため鎌倉を目指すが、関東管領・畠山国安と配下の竹沢右京亮、江戸遠江守等の策謀により矢口渡で戦死した。

策謀とは、渡し船の船頭を買収し、金に目がくらみ策謀に加担した船頭の名が「頗兵衛」であった。

江戸遠江守と竹沢右京亮も報償として數カ所の恩賞地を拝領したが、江戸遠江守は義興の怨霊により狂死。畠山、竹沢も諸所流浪の末に死亡した。また、矢口渡付近にはたびたび義興の怨霊が雷火となり害を及ぼした。そのため住民が義興の靈を慰めるために神と

『神靈矢口渡』

歌舞伎上演が決まる



して祀ったという記述が『太平記』にある。

歌舞伎『神靈矢口渡』の内容を誰にでも解り易く描いたマンガを、好意により掲載しました。

当日のイベントについては四面で紹介します。

16 15 14 13 12 11 11 10 10
時 時 時 時 時 時 時 時 時
00 1500 1530 4500 1500
分 分 分 分 分 分 分 分

閉会 開会 開会 開会 開会 開会 開会 開会

15 14 13 13 13 12 12 11 11
時 時 時 時 時 時 時 時 時
1000 40 2000 40 104000
分 分 分 分 分 分 分 分

歌舞伎「神靈矢口渡」(秩父歌舞伎正和会)

【地下小ホール】 演目予定

矢口ソーラン(矢口小・ひびき会)
和太鼓(荏原流れ太鼓ひびき会)
阿波踊り(大田区役所くすのき連)
日本舞踊「長唄・多摩川」(花月流家元・花月祐里)
休憩(席入れ替え)
歌舞伎「神靈矢口渡」(秩父歌舞伎正和会)

生け花パフォーマンス(東京実業高校華道・茶道部)
お囃子(多摩川諷訪囃子)
津軽三味線(工藤照仙と鳥保会)
DVD歌舞伎「神靈矢口渡」(秩父歌舞伎正和会)
民謡(梅々井冠吾とIMAー民謡ボランティアクラブ)

開会 閉会 開会 閉会 開会 閉会 開会 閉会

【1階大ホール】 演目予定

馬込と大田区の歴史を保存する会(浮世絵等展示)
○多摩川図書館(地域の歴史を学べる資料等展示)
○地域情報誌「矢口トーキー」「かまにし17」展示
○花とみどりのまちづくり ○六郷用水の会
○香川の会 ○神靈矢口渡関連資料
○東京実業高校華道・茶道部(お茶とお菓子の接待)
○地区青少対による模擬店(ミニ縁馬や助六寿司)
○安方神社氏子青年会による子どもの遊び等・・・

【地下展示室】 展示予定

○新田義興ゆかりの地を巡るウォーキング(行程約3km)
午前(10時~11時半)と午後(13時~14時半)
2回実施 定員各30名

※事前予約が必要な催しについて
○歌舞伎「神靈矢口渡」(1階大ホール)
○新田義興ゆかりの地を巡るウォーキング
この2つの催しは予約が必要ですが、町内回覧で周知のとおり、8月末で予約を一旦締め切らせていただきます。現在の空き状況等については、ページ左下の事務局までお問い合わせください。
○どちらの催しも料金は無料です。

(※予定は変更になる場合がございます。)

蒲田西特別出張所管内

男	31,835人
女	29,371人
計	61,206人
世帯	34,152世帯

平成27年8月1日現在

新特別出張所就任あいさつ

七月一日から、蒲田西特別出張所長に就任しました榎田隆一(えのきだりゅういち)と申します。出張所は、千束、蒲田東に続き二か所目です。蒲田東では出張所長も経験しましたが、十年以上前で、地域も異なるので、早く蒲田西地区に溶け込むよう努める所存です。

特別出張所は、戸籍や住民票などの窓口である一方、区行政の窓口でもあります。区の施策や区政の動きをお知らせするばかりでなく、地域の情報や要望等を吸い上げて区の施策に反映する双方の役割を担っております。この意味で、地域の皆様の公私にわたる活動のお手伝いをさせていただきます。

また、今年度は、五年に一度の国勢調査や今号で取り上げた「神靈矢口渡」の公演をございます。今後も皆様と連携して、蒲田西地区の発展と活性化のため、取り組みたいと考えております。

皆様の公私にわたる活動のお手伝いをさせていただきます。

新田神社社殿の後ろにある小丘は「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

新田神社を祀った塚と言われている。義興を祀った塚と言われている。

歌舞伎『神靈矢口渡』の内容を誰にでも解り易く描いたマンガを、好意により掲載しました。

引用 いまいかおる著「歌舞伎筋立て・見せ場がひと目でわかる本」KKロングセラーズさんの御好意により掲載しました。

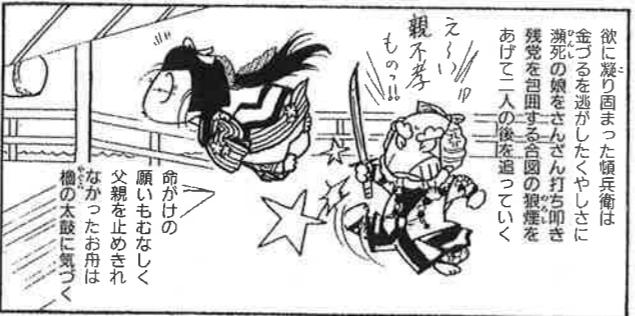
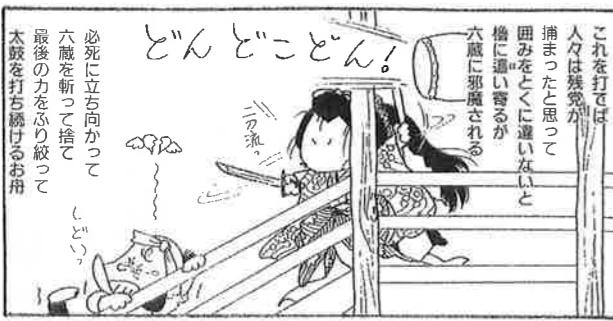
大田区西蒲田七一十二一七一(三七三二)四七八五

事務局 蒲田西特別出張所

1

神靈矢口渡

武藏國の六郷川の川下にある
金のためならんことをしても
するという強欲非道な男
今ではナカナカの羽振りである



必死に立ち向かって
六歳を斬つて捨てる
最後の力をふり絞つて
太鼓を打ち続けるお舟

いつほう頼兵衛は
義峰を渡つて
舟を漕ぎ出すが
突然その首に
じこからともなく
飛んできた
白羽の矢がく
突き立つ



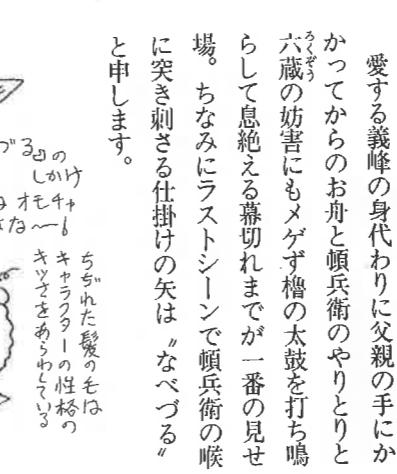
作者は平賀源内、鉱物や博物学の学者ながら、文芸も手がけ、本作をはじめ多くの淨瑠璃を残した「理系の才人」です。お舟が貴公子に一目惚れする場面の詞章「琥珀の塵や磁石の針」には、科学者らしいセンスが。同様に、頼兵衛の豪華な御殿を形容する「琥珀の段 瑞璃の門扉」にも、漢方薬や香の材料としても

かぶきガイド 幕の内外

夏の章 神靈矢口渡

原作は例によつて五段もある長い話だ
そ一ですが『神靈矢口渡』はそのうち
の四段目にあたります。内容のおもしろ
さとともにリアルな人物描写も作品の魅
力のひとつで、義峰を助けたい一心で父
気かしませんか？

原作は例によつて五段もある長い話だ
そ一ですが『神靈矢口渡』はそのうち
の四段目にあたります。内容のおもしろ
さとともにリアルな人物描写も作品の魅
力のひとつで、義峰を助けたい一心で父
気かしませんか？



知る人ぞ知る、あの江戸時代末期の大
天才&大奇人・平賀源内の書いた作品な
んですね。天才の名にふさわしく江戸
淨瑠璃の最高傑作と言われていますが、
ベンヌームが福内鬼外（福は「内」、鬼
は「外」）つてえのが、いかにもとゆー
氣がしませんか？

原作は例によつて五段もある長い話だ
そ一ですが『神靈矢口渡』はそのうち
の四段目にあたります。内容のおもしろ
さとともにリアルな人物描写も作品の魅
力のひとつで、義峰を助けたい一心で父
気かしませんか？

これががバランスつてか

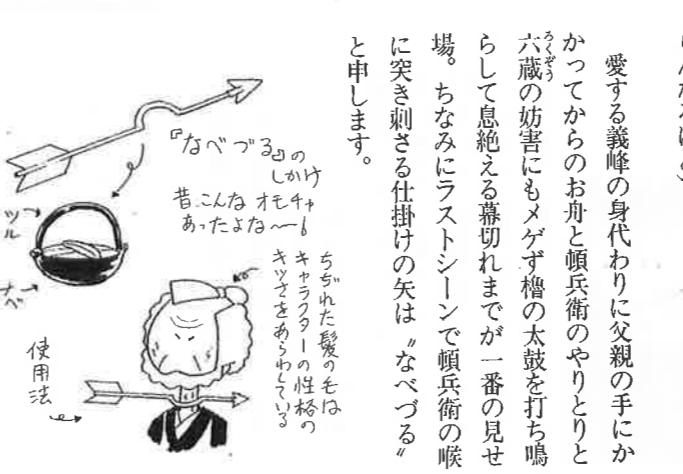
ちよつと 幕間 葦

親の手にかかるお舟の純な恋心と褒美

が欲しい一心で娘の命がけの訴えも耳に
入らぬ頼兵衛の対照的な性格がいきいき
と鮮やかに描かれています。

純情一途で情熱なお舟もかわいいけ
ど個人的に言わせてもらえば、とにかく
頼兵衛がイイのっ！ ここまで強欲非道
に徹してると憎たらしの通り越してか
えつて感心しちゃうつくらいの強烈
なキャラクターですが…好つきやわ
こーゆー爺ちゃん♡（実際いたら、たま
らんだろけど）

愛する義峰の身代わりに父親の手にか
かつてからのお舟と頼兵衛のやりとりと
六歳の妨害にもメダズ櫓の太鼓を打ち鳴
らして息絶える幕切れまでが一番の見せ
場。ちなみにラストシーンで頼兵衛の喉
に突き刺さる仕掛けの矢は「なべづる」と
申します。



珍重された琥珀と、ガラスの古称・瑠璃
が使われています。

科学者らしい目線は、お舟と頼兵衛の
人物像にも反映され、類型を脱したア
ルサガ。

これまでの義太夫作品は、発祥地であ
る関西の作者によつて書かれていまし
たが、本作は初の江戸生まれの作品で
上方とは違つた直線的な強さがありま
す。源内の活躍がきつかけとなり
「加賀見山旧錦絵」や「碁太平記
白石嘶」など、江戸の作者による作品
が生まれました。（イラストレーター・
辻和子）

引用 東京新聞平成二十四年十一月十
八日（日）号十七面「かぶきガイド」
より
株式会社中日新聞社様の御好意により
掲載しました。